

C-12 近郊地における新興住宅民と地元民の生活圏域について

奈良女大家政 扇田 信
足達富士夫
○堀田 千尋

1. 近年来の大都市人口集中に伴い、近郊地域への住宅スプロールは、はなはだしい。その結果、近郊地域には、新興住宅民と、地元民が混在することになる。両者は、歴史的成立過程も異り、自ずと、生活様式、生活圏域にちがいのあることが予想される。ここでは、両者の生活圏域のちがいを明らかにし新しい地域社会づくりの資料とすることが目的である。

2. 上の目的に適する対象地として、奈良県生駒町(旧村落地域・新興住宅地域)、奈良県王寺町(旧村落地域・新興住宅地域)をそれぞれ、70~75戸抽出し、アンケート調査を行なった。なお対象抽出には、現地見学2度ののち、住宅地図上で選出した。

3. 結果として、①両者の生活圏域の大きさは地元民よりも、新興住宅民の方が大きい。②生活圏域の性格については、地元民の中には隣接市町村や、奈良県への依存がうかがえる。しかし、新興住宅民の間では、それらへの依存の程度が少く、直接大都市への依存が大きい。なお、このような結果は、別のアンケート結果である。両者の生活施設要求のちがいによってもうらづけられる。